

恩納村の海でサンゴの産卵ライブ配信に成功！



本村が目指している「サンゴをキーワードに自然環境に優しい地域づくり」に向けた、サンゴ礁保全・再生活動に賛同する取り組みとして、5月27日に養殖サンゴと天然サンゴが見られるナビビーチ沖の恩納サンゴ養殖場、通称「サンゴ畑」にてサンゴの産卵シーンのライブ配信に成功しました。

近年、海水温の上昇や汚染による世界的なサンゴ礁の減少が危ぶまれています。サンゴ礁の面積は地球表面の約0.1%しかありませんが、そこには海洋生物の約25%が生息しているといわれ、サンゴ礁の減少は生態系の変化、漁獲量や観光資源の減少にもつながる大きな問題となっています。

この問題に対し、サンゴ礁保全・再生のために沖縄県・恩納村で地元の漁師が中心となって始めたのがサンゴの養殖。母となるサンゴを育て、それらが産卵することによる自然再生を目指しています。



産卵シーンはこちらから

3:37:40 過ぎあたりから
卵が現れ始めます。



主催：株式会社オーシャナ、合同会社 SAI

後援：恩納村

表紙画像提供：株式会社ワイズ技研 (AquaResearch 事業部)

お問い合わせ：企画課 ☎966-1201



「サンゴと共に生きる」 持続可能な海洋学習



OIST は、安富祖小学校と連携して、サンゴや海への関心を高めることを目的とした海洋学習を今年度より開始しました。

サンゴの特徴や多様性、そして私たちの生活との関わりについて、OIST の研究者がオンラインにて講義を行いました。小学3年生の児童は、「サンゴが泳ぐということは知らなかった。サンゴってすごいと思った」と感想を発表しました。

講師を務めた OIST の中野義勝先生は、「サンゴがすごいと思えるみんなもすごいんだよ。探偵になったつもりでよく観察して、次回までに質問をいっぱい用意しておいてください」と、これから課題に取り組む子ども達にエールを送りました。

今後は実際に安富祖小学校の裏手にある海岸へ足を運び、自らサンゴを観察します。集めた情報や航空写真を利用して、子どもたち独自の資料を作成予定です。

OIST では、これからも村内学校と連携をし、子どもたちが恩納村の自然環境についてより理解を深める事が出来る活動を目指していきます。



太田区人材育成会

太田区人材育成会では、地域の子どもの体験学習事業として環境学習を実施しています。海人（海洋）体験学習ではサンゴの生態系や苗作り体験を通して地域の海の環境学習や農業体験（植付・種まき・管理・収穫）学習を実施しています。農業体験ファームを利用しない期間については、赤土流出防止対策と蜜源緑肥としての活用目的にコスモスの種をまき6月から花が満開で特にコロナ禍の緊急事態宣言の中で区民の皆さんの心の癒しと憩いの場になっています。

